

慶應大学で防災講話を実施 自衛隊の災害対処能力と日米の絆を再確認

神奈川地方協力本部は、「今後、このような機会をとらえ、県内の大学生を始め、外国の学生に対しても、自衛隊の災害派遣活動や安全保障協力の積極的な推進についてPRし、防衛基盤の充実及び募集環境の醸成に努めていく」としている。



本部長を囲んで記念撮影

神奈川地方協力本部（本部長 高田 充一海佐）は、9月1日の「防災の日」に、慶應大学（横浜市日吉キャンパス）において防災講話（講師 本部長）を実施した。

講話は、「東日本大震災における自衛隊の活動」と題して、「震災の概要」、「自衛隊の災害派遣活動」、「米軍の活動状況」の項目に沿って写真を使いながら進められた。参加者は、慶應大学の学生の他、相互交流を図っているスタンフォード大学（米国カリフォルニア州）の学生も含まれていた。

「震災の概要」では、未曾有の被害をもたらした地震と津波の状況等を、「自衛隊の災害派遣活動」では、捜索・救助活動、生活支援活動、応急復旧活動及び原子力事故への対処などが、「米軍の活動状況」では、輸送支援や物資の提供及び被災地のインフラ復興支援活動などが説明され、予定の時間はあっという間に過ぎた。参加者からは、「自分達には何ができたのか」という質問も出るなど、震災後の復興への貢献の在り方を模索している姿が窺えた。講話に参加した学生達はその後、岩手県に赴きボランティア活動を行ったようだ。

広島土砂災害の災害派遣活動を写真でPR 9都県市合同防災訓練中央会場に広報ブースを開設



ブースに立ち寄る近隣の小・中学生



東部方面総監に報告する所長

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 大塚3陸尉）は、9月1日（月）、相模原市で行われた、首都直下地震を想定した「9都県市合同防災訓練」に広報ブースを開設し、自衛隊の災害派遣活動をPRした。

訓練は、第31普通科連隊や第4施設群を始め約1万人が参加し、安倍首相、小野寺防衛相（当時）らが視察した。地本の広報ブースでは、募集相談員の支援も受け、広島土砂災害や東日本大震災の災害派遣活動の写真パネルの展示と災害派遣の現場で隊員が食べられている非常用糧食を展示した。見学者からは、「災害の時は、必ず自衛隊が助けに来てくれるので安心です」「自衛隊の皆さん、本当に、いつもご苦労様です」など、感謝の言葉が多数聞かれた。

相模原地域事務所は、「今後、防災訓練などの場を活用して、災害派遣活動を効果的にPRしていく」としている。

横浜中華街に「はまにゃん」参上 秋の交通安全運動キャンペーンで一役買う



横浜中華街をパレードする「はまにゃん」



横浜中華街をパレード

(1日所長地元テレビ放送局アナウンサー)

神奈川地方協力本部（本部長 高田 充一海佐）は、9月25日（木）、加賀町警察（横浜市中区山下町）が行った「秋の交通安全運動キャンペーン」に協力した。

キャンペーンでは、神奈川県警察の音楽隊が先導して、1日所長（地元テレビ放送局アナウンサー）や地元幼稚園児、そして、多数のゆるキャラが観光客で賑わう横浜中華街の大通りをパレードして交通安全を訴えた。

神奈川地本のゆるキャラ「はまにゃん」もパレードに参加し、最高の愛嬌を振りまいて交通安全に一役買っていた。また、記念撮影を求める人が後を絶たないほどの人気で、パレードの列から外れてしまうという一幕も見られた。

神奈川地本は、「今後、本部が観光地に近いという特性を活かし、積極的にPRして、国民の自衛隊に対する協力気運の拡大に努めていく」としている。